

# オウム対策住民協議会

## オウム真理教信者の

### 裁判傍聴から見えること

—オウム対策住民協議会 第22回学習会要旨—

5月14日(土)にオウム真理教(現アレフ)対策住民協議会が主催した第22回抗議デモには約260名が参加し、引き続き、元朝日新聞社編集委員降幡賢一氏が、「オウム真理教信者の裁判傍聴から見えること」の題で講演された。その内容を以下に要約する。

#### 1. 数字で見る

##### 地下鉄サリン事件

オウム関連の死者は、地下鉄サリン事件12人、松本サリン事件8人など27人を数える。これらの事件で死刑判決を受けた信者被告は13人、無期懲役は5人で、戦後最悪、明治以後一〇〇年余りでは、大逆事件に続く人数になっている。

地下鉄サリン事件の逮捕者数は三八〇人、起訴された信者は一九〇人にのぼり、裁判は事件発覚の一九九五年八月から始まったが、私は約三〇〇〇回の裁判を傍聴し、それを「オウム法廷」として朝日新聞に連載、そ

の数、五〇〇回を超える。

この中から見えた麻原や信者たちを紹介する。

#### 2. 教祖麻原を見る

・ヨガ教室を開いていた時代は、筋肉質で熱心なヨガの修行者だった。この時の空中浮揚が雑誌にのり着目されたのがはじまり。

・詐欺のルーツは、ヒマラヤの解脱者にお金を騙し取られた経験で、この時、宗教だからこそ人を騙せるし、お金も稼げることを体得した。

・自分が盲目なのは、悪いカルマ(業)



鳥山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

のせいだとされる仏教には、自己正当化の上で懐疑的だったが、シャクティイバットは相手のカルマを背負うこともある事を知り、自分の盲目は前世でシャクティイバットをしすぎたからだ、喜んでカルマの法則(因果応報)を説き始める。

・一九八七年からポア(殺人容認)の説法を始めたが、翌年の坂本弁護士殺人事件が闇に葬られた事で、麻原は「解脱者は何をやっても許される」、実行者は「麻原は何をやってもバレナイ」との変な自信を持った。あげくに総選挙に立候補するも惨敗し、反社会的傾向を強め、事件に直進する。

#### 3. 一般信者、弟子を観る

・信者にはいわゆる偏差値の高い有名大学卒もいるが、多くは普通の人間で、優秀な人たちが集まったエリート集団という印象はない。

・有名大学卒が多そうだが、有名大学を中心に信者を獲得し、そのひと達を広告塔として使ったのでそうみえただけ。

・エリート集団というより社会と折り合いを見つけられず、超能力や超自然現象にひかれる孤独なオタク族。

・閉塞感を一挙に解決したく解脱にとびつき、悩みが解決されたと思ひ込んだ集団。

#### 4. 麻原と信者(弟子)が出会って

好きな食べ物「ラーメン」、好きな学歴「東大卒」、好きなこと「カ

ラオケ」。さらには、次々と女に手をだすデタラメで俗物的教祖でも、修行により超人になれるとあってその修行法を教えてくれて、一緒に人類を救済しようとして手をさしのべてくれる。こんな教祖に弟子達は有頂天になり、スタンレー・ミルグラム著「服従の心理—アイヒマン実験」の通り、強さを増す電気や熱のショックもグル(教祖)がどこかで見ていると喜んで我慢し、注射妄想に駆られては互いを監視しスバイ狩りにまで及ぶ。その反応に麻原もすっかりその気になって妄想を広げる。オウム集団はこのように、教祖と弟子共々、自分達の向かっていく方向が見えなくなつて渦巻きあがる「一本の蚊柱」と写つた。

#### 5. 最後に

地下鉄サリン事件は、オウムには珍

### 抗議デモ・学習会に参加して — 投稿 —

今回の抗議デモは参加者も多く、とても有意義だったと思う。孫を乳母車に乗せて参加してくれたおじいさんもいた。「鳥山の街を守れ」「子ども達を守れ」と、シュプレヒコールも力強く感じた。学習会は「オウム真理教裁判傍聴から見えること」という演題で降幡賢一氏に講演をしていただいた。

1. 戦後最大のテロ事件、重罪に問われる信徒たち 2. 教団が無差別テロに走るまで 3. 武装集団の実際 4. 裁判を通して考えることと詳細にわたった。

事件を起こした信者達は、有名大学出身者が多く、オタク世代、今の世の



オウム真理教(ひかりの輪)に対し抗議文を読む

しく綿密に計画された事件でありながら、3人の首謀者の事情で、真実を明らかに出来ない。村井は殺され、麻原は詐病と思われる状態で真実を隠し、井上は自分をかばう心理が働いたため真実を語ろうとしないからだ。事件を見てきたものとして、このことが悔やまれる。

中にうまく対応できない、自分の居場所がない人達が多い。こういう人達は元教祖麻原彰晃こと松本智津夫は、解脱や悟りといった精神的な面から脱き進めていったと言う。講演の中で印象的だったのは、オウム信者はアニメの風の谷のナウシカ、宇宙戦艦ヤマトが大好きだということ。草原の中で又は海の中で外敵にそなえる。正に、サリンによるテロ行為で事態を打解しようとした行為に通じている。あまりにも浮世離れた、幼稚な集団だと感じた。オウム事件の裁判は、二人の最高裁判決を残すのみとなった。

## 第22回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 2011年5月14日(土)

【回収枚数】 54枚

【開催情報の入手方法】 協議会ニュース17、チラシ9、  
広報車2、町会自治会回覧26、その他10

【学習会及び協議会活動への皆さまの感想】

- ・オウム問題は決して風化させてはいけない。継続こそ力である
- ・オウム問題の根深さを改めて痛感した。
- ・松本サリン事件の河野さんを講師に呼んでください。
- ・改めてオウムの解体の必要性を感じた。
- ・さすがに記者傍聴席にて欠かすことなく傍聴された方のお話し。
- ・「狂団」が我が町に住みついていることは許し難いが、住民が心を一つにして困難に立ち向かう中で、コミュニティとしての絆を養ってゆく核・種と出来れば、マイナスをプラスに転じる事もできると思う。
- ・サンサンマンションだけでも形が動き動いてくれて、少しでもデモをした甲斐があったかと思うと力が入る。

- ・今回はよく人が集まりました。住民の忘却を一番心配していましたが、その点心強くなりました。ただ若い人たちの忘却と無関心が気がかりです。降幡氏のお話はリアルでしたが、今後の私達の活動への指針が欲しかったです。
- ・時間配分はちゃんと打ち合わせてあるのですか？
- ・10年もたっているのに、まだオウム事件は色あせていないことを改めて感じた。オウムがなくなるまで活動を続けていくべきと考える。
- ・観察処分更新に向けて、一層の結束と団結を深めて、1人でも多くの署名を集めましょう。
- ・シュプレヒコールのスピーカーの数を増やして、列の後ろの方にもよく聞こえるようにしてはどうですか？
- ・もう少し時間があると良かった。講師の方が話し足りないようでしたので。
- ・協議会ニュースは続けて下さい。
- ・捜査の不備、社会的無関心が事件を生んだ。私達は無関心であってはならないことを確認した。

## 第5回リサイクルバザーへのご協力ありがとうございました

はじめに、この度の東日本大震災で亡くなられた皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。被災された皆様へお見舞い申し上げますと共に、故郷の1日も早い復興を願い祈っております。

この様な大きな災害の中、私達に何が出来るか、バザーなどやっていて良いのだろうか、と話し合いを致しました。その結果、いつもと変わらない生活を続け、少しでも元気な気持ちを被災地の皆さまへお届けしようと



決まりました。バザーの売上の中から義援金を送る、それが今私達の出来る事です。

4月9日のバザー当日は、雨と風が強く、区民センター集会室と広場テントでの実施になりました。悪天候にもかかわらず、大勢のお客様に来ていただき、無事、終わることが出来ました。品物を寄付して下さいました方、当日買物に来て下さいました方、皆さまのご協力、今年も下記の売上と募金が集まりました。10年を迎えた住民協議会の活動資金として、又、今回は義援金としても大切にに使わせていただきます。

ご協力、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

バザー売上 373,657円 活動資金募金 12,587円  
バザー売上げより、83,175円を義援金として送りました。

## 住民協議会活動報告

4月15日(金) 実行委員会

4月20日(水) 協議会ニュース105号初校正

4月27日(水) 協議会ニュース105号再校正

5月6日(金) 事務局会議

5月9日(月) 協議会ニュース105号発行

5月14日(土) 抗議デモ・学習会広報車活動

5月14日(土) 抗議デモ・学習会

5月18日(水) 実行委員会

5月30日(月) 協議会ニュース106号初校正

6月4日(土) からすやま下町まつり会場署名活動

6月6日(月) 協議会ニュース106号再校正

6月7日(火) 事務局会議

6月8日(水) オウム真理教対策関係市町村連絡会出席

6月11日(土) 足立区入谷抗議デモ参加

6月13日(月) オウム真理教足立区新保木間施設に取材

6月14日(火) 協議会ニュース106号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。